

企画展「ミュージアムとの創造的対話 vol.4 ラーニング/シェアリング」の開催結果について

令和6年3月1日
博 物 館

展覧会名 「ミュージアムとの創造的対話vol.4 ラーニング/シェアリング 共有から未来は開くか？」
 会 期 令和5年11月26日(日)～12月28日(木)〔32日間〕
 会 場 鳥取県立博物館 2階 第1・第2特別展示室、鳥取県内のマクドナルド店舗

1 事業概要

ミュージアムを巡る問いを契機に、国内外の優れたアーティストによる実験的で多彩な表現を展示室の内外に展開させることで、思考を促し、人やモノ、場との対話を重ねながら、その現代的な意味を探るシリーズ企画展の第4回目。今回は、「ラーニング/学ぶこと」と「シェアリング/共有すること」をテーマに、同時代を生きるアーティストの作品を通じて、従来の美術教育にはとどまらない「第 3 の学びの場」としてのミュージアムの可能性についての考察を促すことを試みた。

2 開催結果

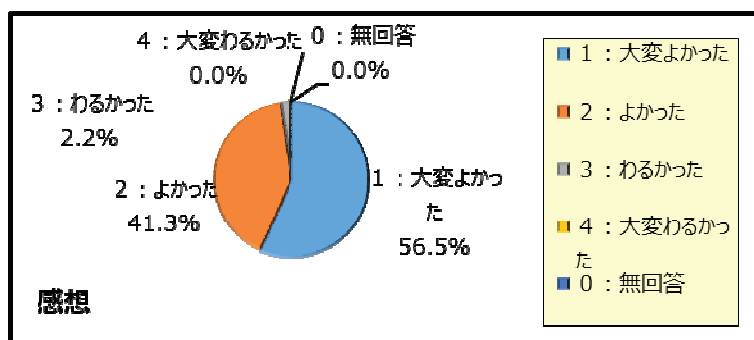
(1)企画展入場者数 2,742人 (目標 6,000人)

(2)関連行事参加者数

内 容	参加者数
① アーティスト・トーク 講師:小沢剛、高山明(11/26)	95人
② パフォーマンス「マクドナルドラジオ大学 イントロダクション」 演出:高山明(11/26)	31人
③ アーティスト・トーク 講師:リクリット・ティラヴァニ(12/17)	71人
④ トークイベント「ヤギの目、ヤギ先輩と語る」 講師:小沢剛、小林朋道(12/23)	59人

(3)結果・反響 (来館者アンケートから:回答数 47人)

①展覧会満足度 「大変よかった」「よかった」とする意見が合計97.8%と好評だった。



・体験型アートで子どもにかえった様に遊んでしまいました。色々な所で体験型アートが増えていき、これから先の未来の子供たちが色々な感性を感じとれてよいと思う。私の子供のころにもあったら、未来が違ったのかも。

・博物館の概念がかわりました。声を出して走って良いんだ…。卓球…。ヤギもか

わいかったです。

- ・スタッフの方や公開制作をしていた芸大の学生さんなど、いろいろな人と話すことができたのでとても面白かった。
- ・鳥取では今まであまりなかった展示。・空間を広々と使うなど、博物館のスペースの使い方が興味深かった。
- ・展示が少なかった。見るものがあまりなかった。展示の説明等、少し分かりにくかった。

まとめ: 今回は、視覚的な鑑賞だけではなく、参加や体験を通じて作品と関わる展示を行うことで、来場者には現代アートへの親しみを感じさせながら、通常の美術展とは異なる新鮮さを与え、様々なコミュニケーションの場としてのミュージアムという可能性を考えるきっかけとなった。「ヤギの目」のプロジェクトでは、有志の方々がリピート来場し、小屋の制作やヤギの餌やりなどをサポートするなどの深い関わりを持つようになった。館外ではマクドナルド社の全面的な協力を得て、県内のバーガーショップ 10 店舗を展示会場として使用できることとなり、特に中部地区、西部地区の在住者が作品にアクセスしやすい環境を整備できた一方で、鑑賞者の反応や来場者数が把握できないといった課題もあった。

【写真】 小沢剛 作品展示風景



好きな人の似顔絵を描くこどもたち



「ヤギの目」による展示室での公開制作



屋外でヤギの世話をする参加者たち



リクリット・ティラヴァニの作品で卓球を楽しむ来場者



リクリット・ティラヴァニ アーティスト・トーク (12/17)



高山明《マクドナルドラジオ大学》案内所



高山明によるイントロダクション (11/26) 於マクドナルド鳥取駅南店

